

第3回若葉区地域福祉計画推進協議会議事要旨

日 時 平成18年10月28日(土)午前10:00～午後0:30
場 所 若葉保健福祉センター3階社協大会議室
委員定数：33名、出席委員数：20名、傍聴人：1名
事務局：8名

【1】次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題(1)地域福祉活動状況の報告について
 - ア 「おげんきくらぶ」の活動と千葉市あんしんケアセンターについて
 - イ 自治会活動について(2)地域福祉パイロット事業について
(3)その他

【2】議事の概要

- (1)地域福祉活動状況の報告について
 - ア 「おげんきくらぶ」の活動と千葉市あんしんケアセンターについて
委員から説明があった。また、千葉市あんしんケアセンターについて事務局から補足説明があった。
 - イ 自治会活動について
副委員長から説明があった。
- (2)地域福祉パイロット事業について
事務局から、申請のあった3件の事業計画書に基づき説明があった。
- (3)その他
各委員からの意見、要望及び事務局から次回開催日等についての説明があった。

【3】発言要旨

- 【議題(1)ア「おげんきくらぶ」の活動と「千葉市あんしんケアセンターについて」における質疑応答】
- (委員長) 前回、前々回と熱心に議論を頂き時間をオーバーしてしまい、進行の不便を反省している。今回も、熱心に議論を頂きながらも時間を守っていきたいと思うので、協力をお願いしたい。
本日の議題の最初は、地域のなかにある施設がどのような活動、交流をしているのか、推進協の委員の一人でもあり「シャローム若葉」の施設長をしている委員から説明をお願いしたい。
- (委員) 「シャローム若葉」が千葉に来てからの13年間、地域住民とともにやってきたことを紹介したい。
施設長就任当時から、二つの大きな目標を掲げ地域福祉に取り組んできた。その一つ目は、地域密着の福祉、二つ目は、住民参加型の福祉です。
施設として、サービスを提供するだけでなく、住民が元気になるように、そして地域が活性化されなければならないとの信念に基づき、平成8年4月に「おげんきくらぶ」を立ち上げ、月1回程度ボランティア講師を招き、地域住民を対象とした陶芸、書道、俳句、英語、健康体操など多様な教室を自主的運営で開催している。

現在70名が参加しているが、桜木町、若松、小倉、千城台など周辺の地域の住民が対象となっており、自主的な交流会や食事会なども実施している。

しかし、介護保険が導入されてからは、事務量が増え職員が手一杯となり応援できない状態になっている。そのようなこともあり、自主的な運営にしておいて本当に良かったと思っている。

現状の問題点は、いろいろな活動に際し指導する側、指導される側はすぐ集まるが、その運営をコーディネートする調整役の方が少ないということで、コーディネーター、コミュニティーケースワーカーが多ければ、地域における活動がもっと増えるのではないかとということで、今も模索している。

また、平成17年8月に開設された「グループホーム虹の家」では、地域の方がいつでも立ち寄れるよう、地域交流スペースとして安らぎの空間が設けられている。

最近では、あんしんケアセンターの保健師さんがヨガをやっている関係で、介護予防にどれ程の力になるのか、ヨガ教室も始めたところである。

最後に、今後も地域の資源を生かし、地域住民との接点を大切にして施設が地域に開かれたものになるよう頑張っていきたい。

(委員長)

質問等があったらお願いしたい。

(委員)

「おげんきクラブ」、「ふれあいサロン」など、利用者の年齢制限はあるのか。

(委員)

年齢制限は特にない。一番高齢者の方で80代、あとは50代から70代まで平均している。

(委員)

ヨガ教室は、月に何回開催しているのか。

(委員)

基本的には月1回。

(委員)

70名が「おげんきくらぶ」に参加しているとのことだが、どのようにして集めたのか。

(委員)

特に、チラシやポスターは作っていない。ほとんどが口伝えである。他には講師の個人的な魅力もある。体操は大変人気があるクラブで、本日出席している委員が講師を担当している。委員から紹介をお願いしたい。

(委員)

桜木町のシャロームでは、22名が登録しているが、平均18~9名が参加している。毎月第3日曜日の午後1時30分から4時まで。若松のシャロームは、第4火曜日の午前11時から食事をして解散となっている。若松の方はスタートして間もないので、現在13名で活動している。どちらも、ストレッチ体操を主にやっているが、今でも試行錯誤しながら、さらに良いものにしていきたいと考えている。その他にも、忘年会、新年会、納涼会の企画も実施している。

(委員長)

あんしんケアセンターについて説明をお願いしたい。

(委員)

平成18年4月に千葉市から委託され、地域で暮らす高齢者のみなさんを、介護、福祉、健康、医療などさまざまな面から総合的に支えるために設けられた。主任ケアマネジャー、社会福祉士、保健師の3人が互いに連携をとりながら、介護予防サービス、成年後見制度の紹介や、虐待防止のための支援、高齢者の各種相談など地域のみなさんを支えている。千葉市内各区2ヶ所に「あんしんケアセンター」があり担当地域が決まっている。若葉区には、「シャローム若葉」と「ちば美香苑」があり、従来からある市内5ヶ所の「在宅介護支援センター」は引き続き相談業務のみ行っている。

(事務局)

介護保険法改正に伴い、今年の4月より市町村に地域包括支援センターの設置が義務付けられた。

千葉市では、地域型在宅介護支援センターの17箇所に業務委託をお願いし、各区2箇所の12の地域型在宅介護支援センターが受託し、千葉市あんしんケアセンターとして担当区域を決めて業務を行っている。また、残り5箇所の地域型

在宅介護支援センターは、引き続き相談業務をお願いしている。

また、担当区域についてはパンフレットの6・7ページに一覧が掲載されている。

【議題(1)ア 「自治会活動について」における質疑応答】

(委員長) 副委員長から説明をお願いしたい。

(副委員長) 前回、自治会は何をしているのか分かりにくいと言う意見があったが、今回は少し細かくお話ししたい。

行政の末端組織ではないが、自治会の一番大事な機能としては、市・区からの情報の伝達がある。自治会のスタンスとしては、住民共通利害の整理、生活環境の維持・保全、地域の安全保持の3点が挙げられ、個人には立ち入らないことになっている。

昭和15年に発足した「となり組」と比較されるが、「となり組」はそもそも連帯意識の保持と相互観察という意味合いが濃く、戦後GHQにより廃止された。その後、復活し今日に至っている。

現在、若葉区内で196の自治会があり、世帯数で42,799世帯となっている。一番大きい自治会で1,701世帯、一番少ない所で9世帯である。

自治会の主な行事としては、7月・8月の夏祭り、9月の敬老会、10月の地域運動会がある。この3つが各自治会の大きなイベントである。その他、福祉部、児童部、婦人部などで、いろいろな活動を行っている。

活動を支える財源としては、各自治会の会費が一番大きな財源となっている。次に市・区から、情報の伝達ということで、委託料として一世帯あたり年間400円、また防犯灯の設置、補修費用の75%から80%が補助されている。防犯灯にかかる電気代も同様に補助されている。

その他、千葉市集団回収奨励補助金制度による古紙、古繊維収集で、キロ3円の奨励補助金を受けている。これはかなり大きな財源となっており、ある自治会では活動のメインとして資源回収に熱を入れている。最後に、敬老会の委託金として70歳以上の高齢者に一人830円が補助されている。

私のところでは、運営費、総務費、防火・防犯、環境経費で6割、いろいろな催し物で4割という形で支出されている。

市・区からの防火・防犯の要望が強く、自主防災組織づくりを勧められているが、若葉区では全自治会の5割強がやっと立ち上がった程度である。その自主防災組織とボランティアにより、昼間、夜間のパトロールや学校のセーフティウォッチャーをおこなっている。先日、東警察署でパトロールの研修が行われ29団体が参加した。

最近の課題としては、平成20年5月末までに、法律で義務付けられた全家庭への火災警報器の設置がある。一個5千円位で、各家庭で3～4個の取り付けが必要になってくる。

もう一つの課題は、国民保護法に関して、国民に危険が生じたときの避難等の対応が求められているが、いずれ自治会にも関わってくる問題である。

自治会の方でも少子高齢化による様々な問題が発生し、運動会の学年別対抗リレーができないことや、高齢者の在宅時間が増えたことで近隣とのトラブルなどが増えてきている。その他、ペットの匂い、騒音問題も発生している。

自治会による福祉活動については、資料もなくノウハウもないため、十分な体制ができていないのが実情である。

(委員長) 質問等があったらお願いしたい。

(委員) 私の住んでいる地域のことについてお話ししたい。自治会のなかにいる民生・

児童委員、社協の福祉活動推進員、社会体育振興会、社会体育指導員など各団体の協力を得て、総合的な地域住民の体力づくり、福祉活動をしている。

(委員)

副委員長の話で、敬老会の委託金が自治会に入っているとの話でしたが、自分が属する東南地区では社協に入っている。

自治会の役割については、会則にもあるとおり、安全で明るく住みやすい町づくりである。大きく言えば、行政と一体となって住民の安全と財産を守るということである。自治会での福祉に関しては、社協会員の募集、会費の徴収など間接的な支援は行っている。社協だけで行うのは大変なことであり、自治会の組織を利用している。自治会と社協との関係については皆さんも感じているように、お互いに理解していない部分がある。今後はコミュニケーションの拡大が必要であると思う。本日も、南町自治会員40名が集まり、そこに地区部会の会長、副会長にきてもらい社協活動の説明をしてもらうことになっている。

先日、東南地区部会主催のパイロット事業である「認知症予防講演会」に行ったが、180名が集まり盛況であった。参加者の一割でも実践できれば、パイロット事業の成果があったと言えるのではないかと。

(委員)

独居老人問題について、日頃から何かあったら大変だと思っていたが、先日、新聞配達員からの通報により、家で倒れている高齢者を発見し、無事一命を取り止めることができたと言う事件があった。新聞配達員の重要性を痛感したと同時に、日常の交流の大切さと、地域で高齢者を見守ることの重要性を再認識した。

(委員)

構成メンバー1千世帯の自治会の会長をしている。自治会と福祉について問題提起したい。

自治会の活動については、副委員長の説明のとおりだが、福祉の問題だけを取り上げると非常に戸惑っている。

若葉の福祉を考えると、社協の地区部会を通しての福祉が一つのルートとして行なわれているようだが、直接市民と接している自治会の関係に行政がどのように働きかけているのか、端的に言えば、福祉というのは社協の地区部会を通しそれぞれの地域に浸透させてゆくもので、それが福祉のすべてなのか、行政に問いたい。なぜならば、社協から見れば、自治会は何をしているのか、自治会から見れば社協はどのような福祉をしているのか、ということになっているからである。

自分の町内会でも、社協の地区部会から4名の民生委員に指示があるが、それは直接町内会の活動とは結びついていない。ましてや、会長の自分は蚊帳の外である。自分の町内会で言えば、住民の85%を組織している。その様な組織を活用し福祉をやっていく必要があるのではないかと。

地域力と言うか、福祉も地域の力で支えまじょうと、行政も言っていると思うが、その部分が全く整理されていない。社協の地区部会のルートでやるのであれば、自治会、社協をしっかりと組織しなければいけない。

若松地区部会の一員ではあるが、何人も活動していない現状で、9町内会の住人を対象に何をやっていけるのか、ということになってしまう。行政の方でシステムを考えてほしい。私の理解不足であれば説明をお願いしたい。

(副委員長)

私も同じ若松ですが、委員に同感です。少なくとも、2ヶ月に1回位は地区部会会議を開催し、各自治会へ情報提供・収集をすべき。それによって、社協が全体の自治会をまとめて、どのように行動したらよいか考えてほしい。

基本的には、福祉については社協が中心になってやってもらいたいと考えている。

(副委員長)

小倉地区部会で副部長をしている。小倉地区部会では、地区部会の副部長に自治会の会長、副会長に入ってもらっている。当然、常任理事会にも自治会長、副会長が出席しているので、情報の共有は十分図られており自治会が知らなかつ

たということはない。昨日、今日の話ではなく相当以前からそのようなシステムを取っている。敬老会についても常任理事会で決定し、お互い協力して行っている。

(委員)

この推進協議会で社協のことは何度も説明を受けたが、印象的だったのは、私達は民間の団体です、という言葉だった。市が民間の団体である社協に補助金を出し地区部会を通して地域福祉の増進ということで今まで来たと思うが、今回推進協議会がつけられたのは、地区部会、自治会、施設関係者、自分のような一般の市民が横並びとなって地域福祉について考えよう、というためにつけられたと理解している。

小倉地区部会は社協と自治会が一体化し非常にうまくいっていると言う話であったが、他の地区部会では、それが一体化しているがために住民が地区部会に対して何も言えないところもある。それぞれの地区部会の状況は違うと思うが、この場所はそれらの人たちが横並びとなって地域福祉を考える場所だと思う。

地域に帰っても、自治会だとか、社協とかではなく、そのエリアで熱心に活動している人、自分のことと言えば、都賀の台の地域で活動するすべての人がフラットになってこれからの福祉をどう考えるか、それが今必要だと思う。私も以前は社協は何をやっているのか、と聞いていたが、今ここでそのようなことを言っている段階ではない。

個人的には、社協の組織をしっかりしたものにしては考えていない。いろいろな組織、団体があっていいと思っている。要するに、すべての人が横並びとなってどうするか考えるべきである。

地区部会、社協の議論はこの辺にして、ここは推進協議会で福祉を推進する場所だということを思いだして、次回からはその辺の議論をして頂きたい。

(委員)

その意見には同感です。まちづくりは行政だけがやればいいということではなく、市民も一緒になってやって行こうという時代である。福祉もそうで、まちづくりや地域福祉については行政との連携が必要である。委員が言うとおり、何処が上で何処が下か、ということではなく、行政との連携を図る窓口がどこになるのか。小倉地区部会は上手くいっているとのことですが、その辺を行政に整理して欲しい。小倉地区部会を手本にするのであれば、地区部会、自治会をもっと強化するなど指導して欲しい。

時間がもったいないので、行政の関係者の意見を聞きたい。

(委員長)

社協と自治会の問題については、委員の発言に集約されていると思うが、各地域の歴史やそれぞれの成り立ちで、社協と自治会の連携が十分図られているところ、そうでないところがあると思う。

推進協議会の役割は、社協、自治会、地域の人が集まりどのように地域福祉を推進していくのかを考える場所である。これまで議論されてきた地区部会と自治会との連携については、一つの提案として考えたい。

組織としてできているのは地区部会で、上から下へという形ができている。自治会の方は上から下への組織がはっきりとしているわけではないが、各地域に居住している住民レベルでの連絡調整、連携を図っていく一つのモデルとなっている。あるいは提案というものはこういう形で進めていったらいいのではないかと、ということを実践しているところでもある。

敬老会の委託金の流れも、社協であったり自治会であったり、それをどちらかに決めるには難しい部分もあると思うが、概ねこういった形でいきますよ、と言うものが考えられるのではないかと。

ここは推進協議会であり、いかに連携、連絡調整を図っていくのか、そして、地区部会、自治会以外の社会資源を巻き込んだ形での地域の福祉をどう推進して

いくのか、ということ話し合う場所である。今後、そういう形で議論ができればと思う。

今日は、そこまで踏み込んでいくと長くなってしまうので、具体的には次回以降、そして、来年度に向けての話も次回の議論になってくると思うので、2年目の推進協のあり方、あるいは推進のあり方について、次回、話し合っていきたい。

行政の方で何かコメントできることはあるか。

(事務局)

推進協の役割は、地域の団体や機関、グループなどが情報を共有し、それを地域に発信することにより、多くの方に地域福祉に関心を持ってもらうために立ち上げたが、行政側としても、自治会の所管は地域振興課、福祉については、区福祉サービス課、本庁の福祉総務課となっており、横の連携が図れない部分もあり、縦割り行政と言われても仕方のない部分はある。

(委員長)

行政の方でも横の連携を図ってもらわなくてはいいけないが、地区部会と自治会の協力のあり方についても何か提案ができたらと思う。

地域のそれぞれの事情があるので、すべて統一することはできないが、ただ、目標は地域福祉の推進、住民の生き生きとした生活を守ることであり、そのための連携を図っていきたい。

自治会で行っている事業ということで、委員から資料を出してもらっているので説明をお願いしたい。

(委員)

千城台1丁目自治会と、地域にある「グループホーム・心の花」の地域交流について説明。その他、防災訓練、防犯パトロール等についても説明。

(委員)

防犯パトロールの時間帯と従事する人数について教えて欲しい。

(委員)

夏は午後7時から1時間ほど、普段は4時から。人数は10名～15名。

(委員長)

千城台1丁目の自治会活動について報告してもらったが、その他の自治会でも特徴のある、また独自の活動をしている所もあると思う。そういった機会に地域の人が顔を合わせることが大事である。そこに、先ほど委員が言っていた組織率85%の自治会が関わることにより非常に大きな力になると思う。そこに、社協、施設、自治会未加入者を巻き込んだ形でどう推進していくのかが課題になる。

自治会の話を見ると、自治会同士の交流もあまりないようである。先進的な、あるいは独自の活動を展開している自治会同士の情報交換ができれば、自分の自治会でもやってみようということになり、新しい取り組みができるのではないか。

しかし、1,700世帯から9世帯まで自治会の規模に違いがあるので、どの自治会でもできるものではない。

以前、行政に対し自治会に最低限こういう事をして欲しいとお願いしている事項があるのか聞いたことがあるが、自治会は自主的な組織であり、命令などできないと言われた。自治会は住民自らが考えて活動するすばらしい組織だが、情報を共有してはじめて意義のあるものになっていくと思う。

この推進協議会も、各委員が情報を持ち帰りそれぞれの団体に広めることが、もう一つの大きな推進に向けての力になる。

各団体が横並びで議論ができることも大事だが、実際に地域のなかで大きな力として活動している地区部会と自治会を活用していきたい。そこを足掛かりにして、あるいはそこを中心にする場面も出てくると思う。そういった意味で、そこでの連携、連絡調整とかそういったところでの提案ができたらと思う。次回その辺の議論をしたいと思うが、如何か。

本日は議題として区内にある施設と自治会の説明をしていただいたが、次回もう少し施設の話を知りたいか、あるいは実際に地域で活動しているボランティアの実情を説明してもらいたいと考えていたが、今回地区部会と自治会の話がでたので、

そこでの連携、提案と言った形で議論ができたらと思うが、如何か。

(委員)

自治会について議論しているが一言申し上げたい。千葉市の住民が自治会に対しどのような意識を持っているのか、今もしアンケートを取ったとすると、私の地区では自治会廃止論者が多く自治会など無くなってしまう。そのような状況で自治会活動をしている。

行政が問題を提起する段階で、社協なのか自治会なのか、自治会は任意団体だから後回しでいいと考えているのか。社協はどちらかと言うと行政側の団体ということで理解している。

資料を見るといたるところに自治会の名前がでてくるが、自治会が頼られているという感じは全然しない。むしろ社協の方が頼られている。先程から地区部会の話がでていますが、みつわ台には地区部会がない、なぜできないか、その辺の経緯も知らない。30年自治会活動をしているが、1回も来たことがない。そんななかで、幸か不幸か区連の副会長に推薦され、そういう経緯で否応なしにここにいる。

自治会で活動をしているなか、社協からいろんなお願いがくるがすべてカットしている。過去に2~3回苦い経験をしており、社協の言うことは信用できないというのが根底にある。そういうなかで、赤十字募金は隅から隅まで解るつもりでいるし、寄付活動にも協力している。

住民一人一人がもっと自治会に関心を持ち個人々の意識が芽生えてきた時、自治という言葉が可能になってくるのかと思う。

社協の一員である皆さんは、自治会のなかでは目立たないように感じる。行政からみたら自治会は任意団体ですが、結構核になる活動をしているので理解してほしい。そうすれば、この会がもっと早いテンポで進んでいく。

(委員長)

行政の縦割りの弊害もあるとは思うが、ひとつの目標を定めて努力していければと思う。

【議題(2)「地域福祉パイロット事業について」における質疑応答】

(事務局)

- 1 桜木地区部会 「生活習慣病予防と健康な体づくり研修事業」
 - 2 更科地区部会 「親子で凧づくり・凧揚げふれあい事業」
 - 3 若松地区部会 「新春3世代フォーラム2007 in 桜木」
- について、それぞれ事業計画書に基づき説明。

(委員長)

今回のパイロット事業に関わる委員がいるので、補足説明があったらお願いしたい。

(委員)

「新春3世代フォーラム2007 in 桜木」は、30代、40代、50代前半の住民が地域での人間関係が希薄になっていることから、福祉の問題だけではなく、地域の力を伸ばすためにも、その様な人を地域に引っ張り出そうという目的で申請した。

(委員)

事務局の説明のとおり。質問があったらお願いしたい。

(委員長)

他に質問はないか。

(委員)

桜木町にあるシャローム「お元気クラブ」で事業を行うとして、若葉区内全域から参加者がいる場合、どこの地区部会に申請したらよいのか。また、老人クラブ連合会が若葉区内全域から申請者を集める場合、どこの地区部会に申請したらよいのか。

(事務局)

本部と検討し、後日お答えしたい。

(委員長)

意見具申がないということは、了解したと言うことでよろしいですね。

【議題(3)「その他」における質疑応答】

(委員長)

今年度は4回の推進協議会開催を予定しており、次回は平成19年2月を考え

ているが、それでよろしいか。意見があったらお願いしたい。

(各委員)

意見なし。

(委員長)

了解したということよろしいか。

本日、欠席している委員から、第2回目の推進協議会議事要旨に自分の発言した内容すべての記載がされていないとの意見を頂いたが、第1回目でもお話しさせて頂いたが、議事要旨には発言の内容を凝縮し記載しているので、了承して頂きたい。

(委員)

第2回の推進協議会で地区部会等の資料をもらったが、作成年月日、表題がないものがあった。今後、注意してもらいたい。

(事務局)

今後、きちんと記載させてもらう。

(委員)

出前講座の利用状況を知りたい。

(事務局)

後日、確認のうえ報告したい。

(委員)

学校の空教室の利用等の考え方を知りたい。

(事務局)

保健福祉総務課と教育委員会で協議検討中だが、結論は出ていない。

(委員)

千葉市の教育委員会は何もしない。この前も地域の学校長の下承を得たので委員会に相談したところ、あっさり断られた。

(委員)

広報紙について、もっと公的な場所に置いてほしい。

(事務局)

検討させてもらう。

また、次回の推進協議会は平成19年2月17日(土)を予定している。

12:30を以って全ての議事を終了し閉会した。